

第3章 質問紙調査結果の分析

1 児童生徒の自尊感情・自己肯定感に関する状況

どの質問も肯定的に回答した児童生徒の割合は増加傾向にあり、自尊感情・自己肯定感が継続的に高まっています。

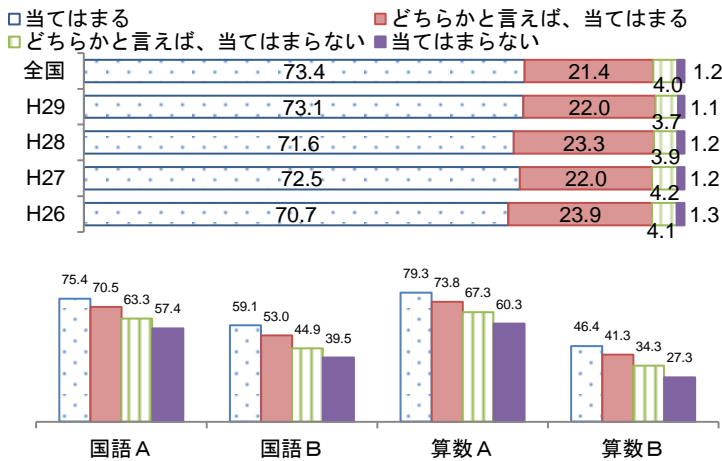
回答別に平均正答率を比較してみると、肯定的回答の平均正答率が最も高くなっています。これらのことから、自己肯定感と平均正答率との間には関連があると言えます。

家の人との会話や地域の人との関わりなど、多くの大人が関わり・励ますことで、子どもたちの自尊感情・自己肯定感をさらに高めていきましょう。

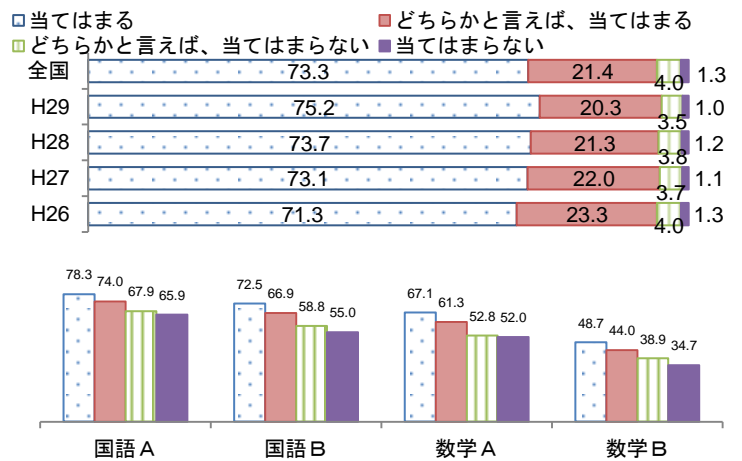
※グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

小学校



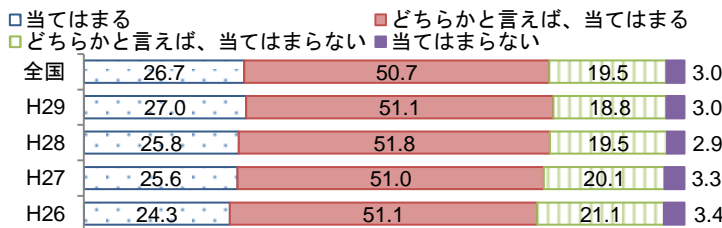
中学校



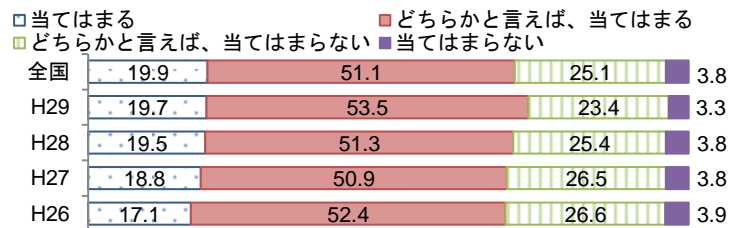
※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を、下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率を示しています。

【児童生徒質問紙】(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

小学校

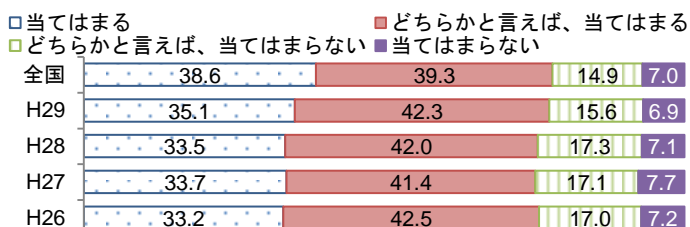


中学校

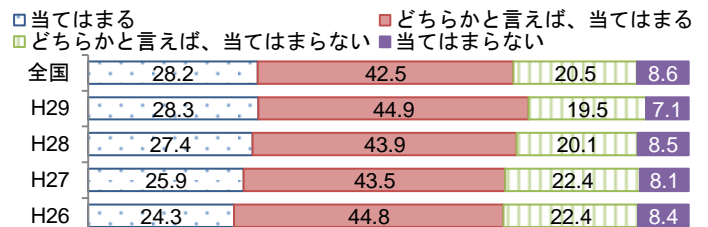


【児童生徒質問紙】(6) 自分には、よいところがあると思いますか

小学校



中学校



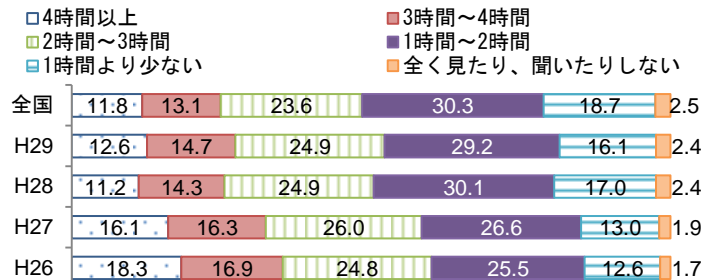
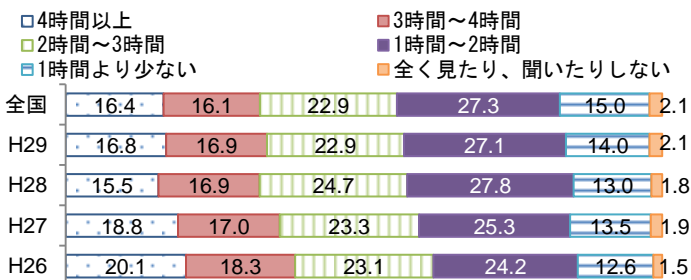
2 児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用時間に関する状況

児童生徒ともに全ての項目で3時間以上と回答した割合は昨年度より増加し、全国より高い数値を示しています。テレビ、ゲーム、スマートフォン等の使用について、家庭で話し合ってルールを決めて守り、自己管理能力を育てることが大切です。

【児童生徒質問紙】(12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)

小学校

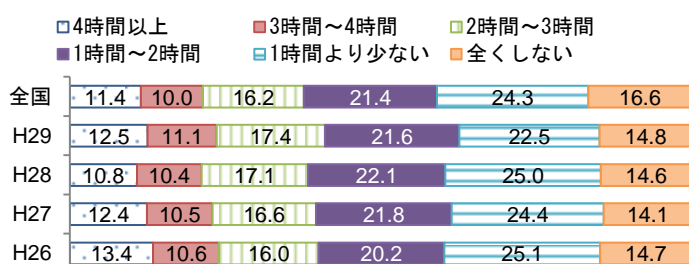
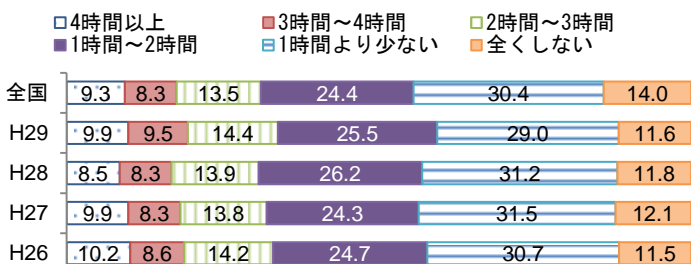
中学校



【児童生徒質問紙】(13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

小学校

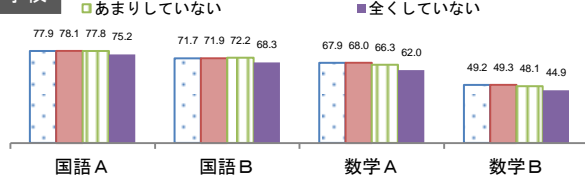
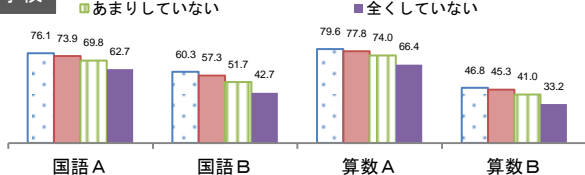
中学校



〈参考〉【児童生徒質問紙】(26・28) テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますかと各教科の平均正答率との関連

小学校

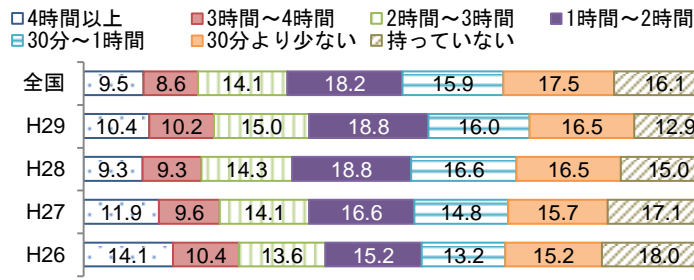
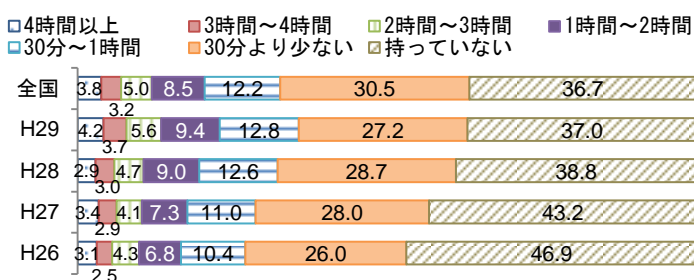
中学校



【児童生徒質問紙】(14) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

小学校

中学校



3 児童生徒の家庭学習に関する状況

「1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、平日・休日ともに全国より低く、特に休日に大きな差が見られます。また、各質問項目を回答別に平均正答率で比較してみると、平日・休日ともに、「1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の平均正答率が算数B・数学Bを除き、全国の平均正答率を上回っています。

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」と、「家で、学校の授業の復習をしていますか」との質問では、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が全国の平均正答率を上回っています。

中学校では、平日の学習時間が「2時間以上、3時間未満」と回答した生徒の平均正答率が全ての教科で最も高くなっています。「3時間以上」と回答した生徒は睡眠時間が短く、翌日の授業に集中できていないことが考えられます。睡眠時間を確保しつつ、授業の復習を含めた学習の時間が取れるよう、計画を立てることが必要です。

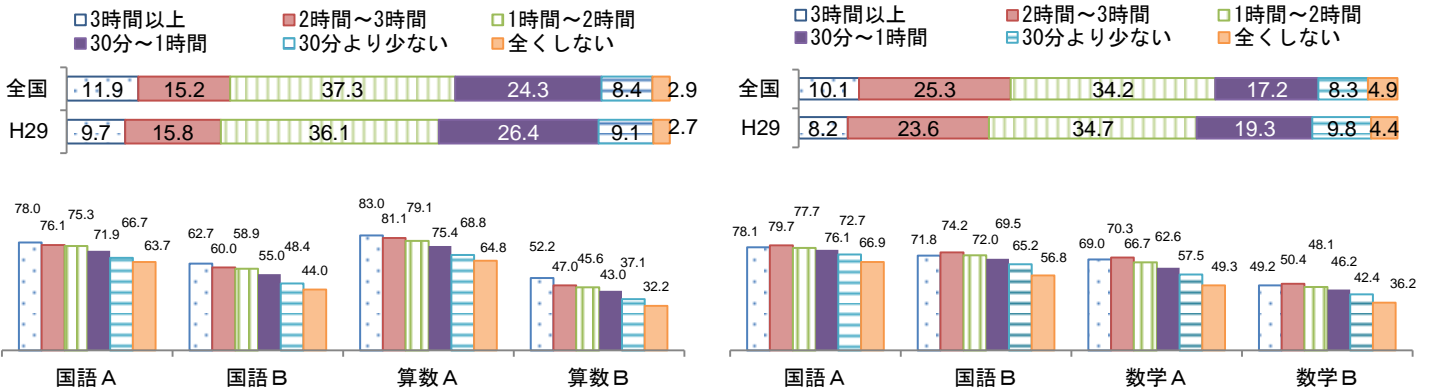
全国の平均正答率

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	74.8	57.5	78.6	45.9
中学校	77.4	72.2	64.6	48.1

【児童生徒質問紙】(15) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校

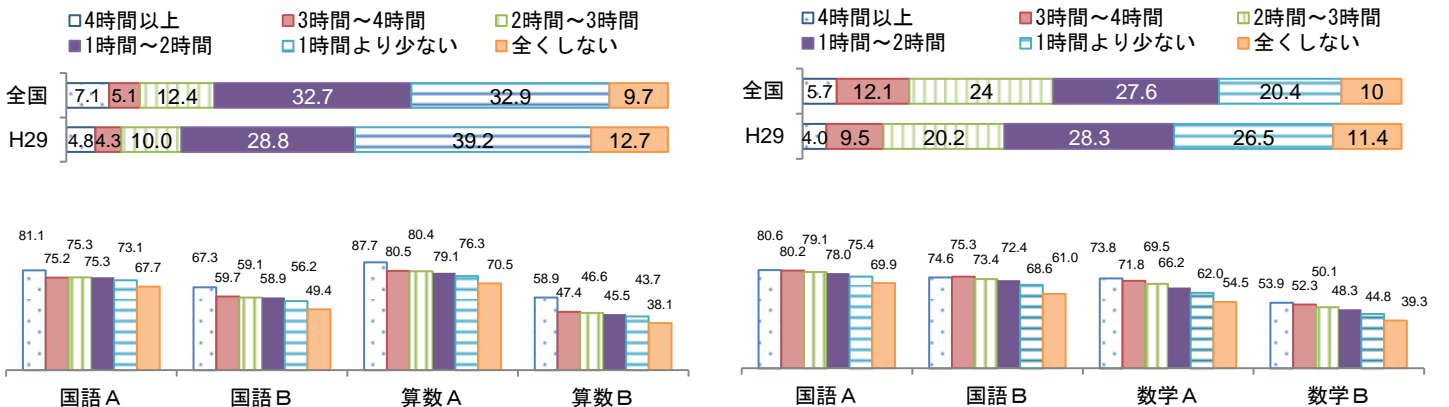
中学校



【児童生徒質問紙】(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

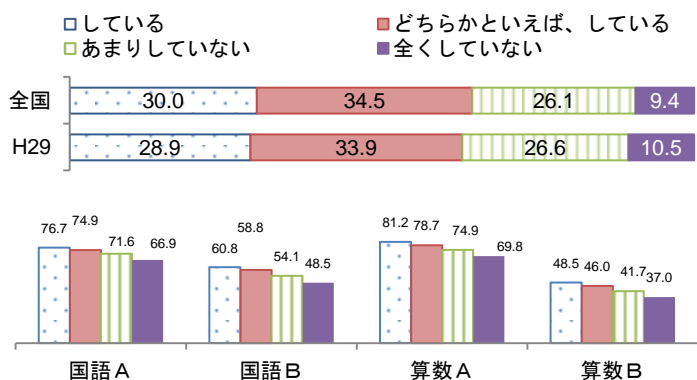
小学校

中学校

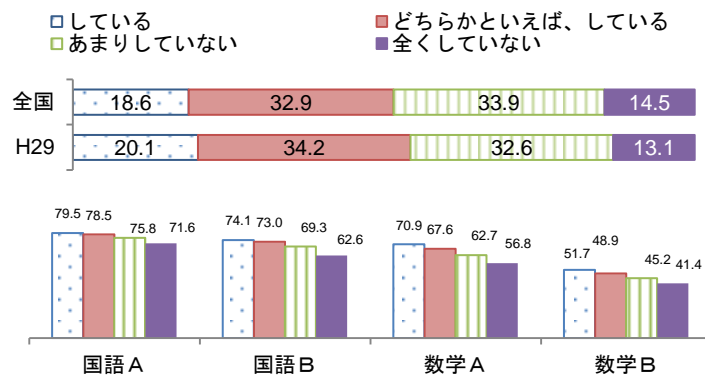


【児童生徒質問紙】(29・31) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

小学校

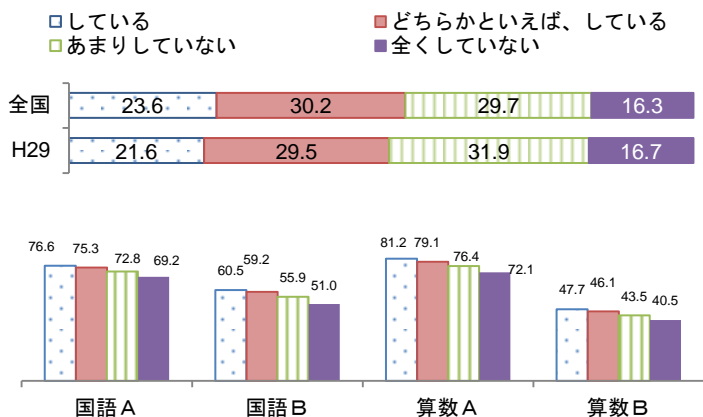


中学校

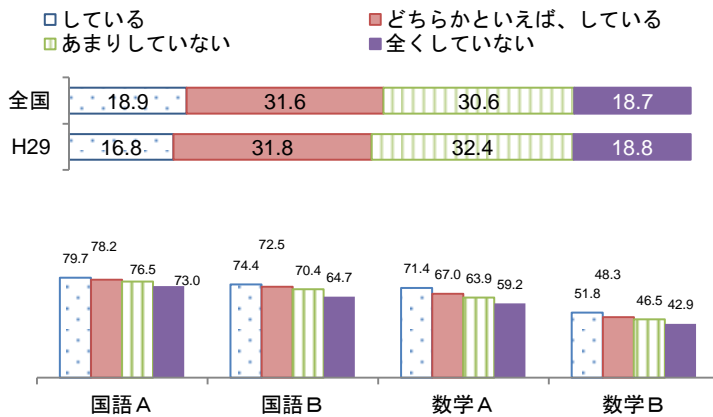


【児童生徒質問紙】(32・34) 家で、学校の授業の復習をしていますか

小学校

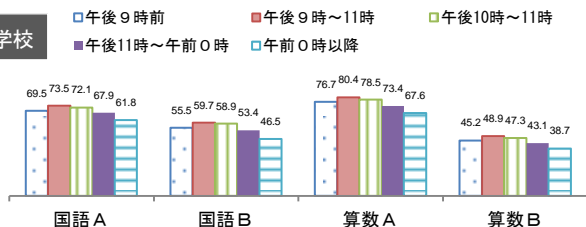


中学校

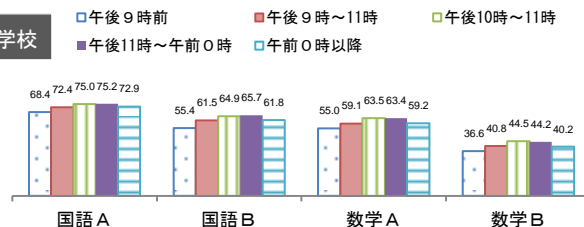


〈参考〉【児童生徒質問紙】 普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに寝ますか(平成28年度)と各教科の平均正答率との関連

小学校



中学校



※平成29年度の質問紙項目にはありません。

4 児童生徒の読書習慣に関する状況

中学校では平日10分以上読書をする生徒の割合は、減少傾向にありましたが、本年度増加しました。しかしながら、全国と比べると依然として低い状況です。小学校では平日10分以上読書をする児童の割合は、昨年度よりやや減少しています。また、全国と比べると低い状況が続いています。

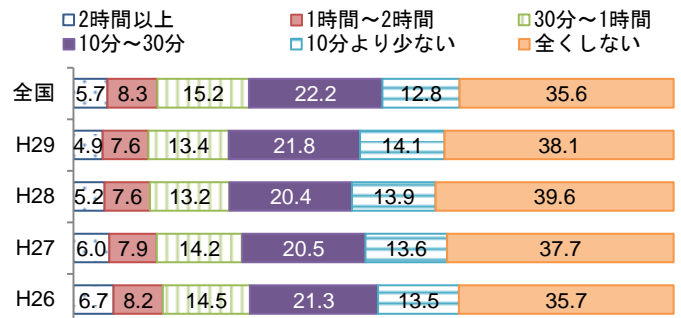
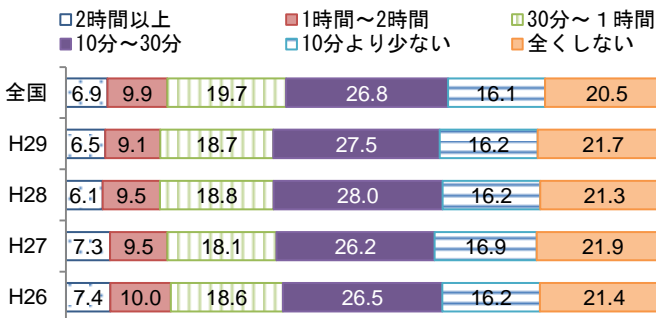
「読書が好きですか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度からやや減少しています。生徒の割合は、平成27年度以降、増加傾向にあります。回答別に平均正答率を比較してみると、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっており、関連があることがわかります。

大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをおして家庭読書（家読（うちどく））を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立していきましょう。

【児童生徒質問紙】(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学校

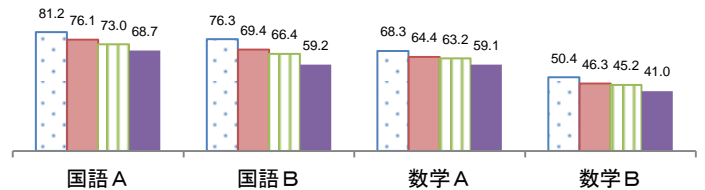
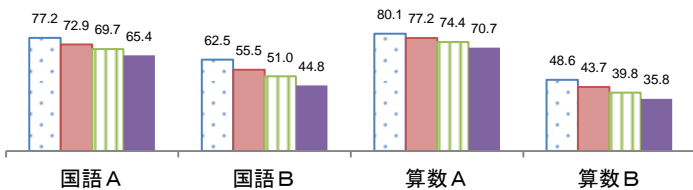
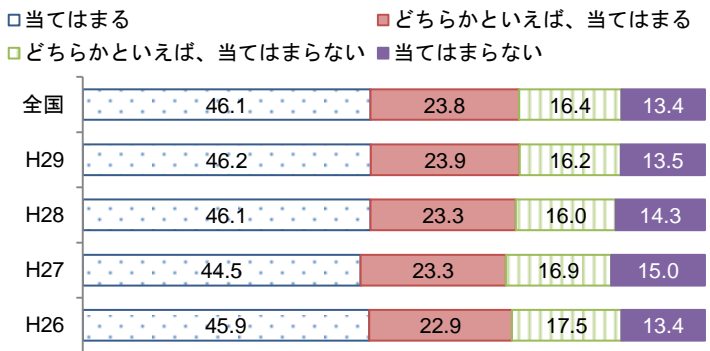
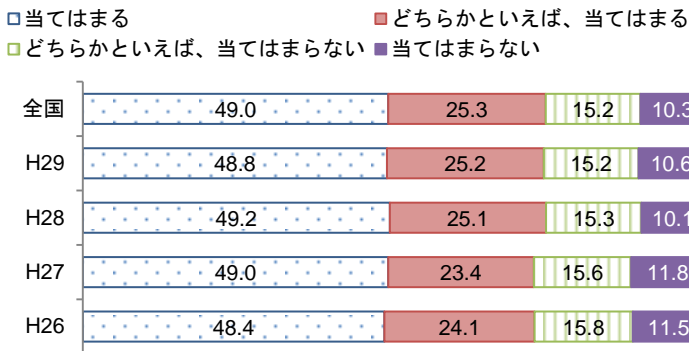
中学校



【児童生徒質問紙】(72・74) 読書は好きですか

小学校

中学校



5

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する状況

「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」との質問に肯定的な回答をした小中学校の割合は、増加傾向にあります。また、「よく行った」と回答した小学校の割合は、昨年度より減少しています。

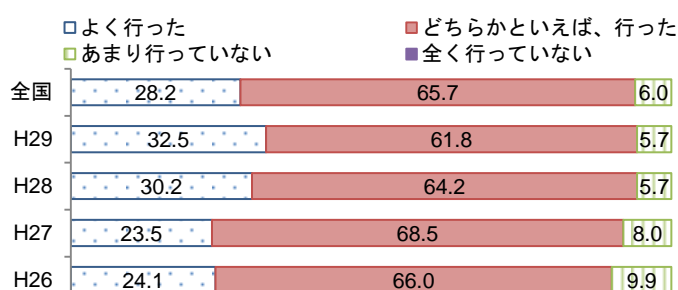
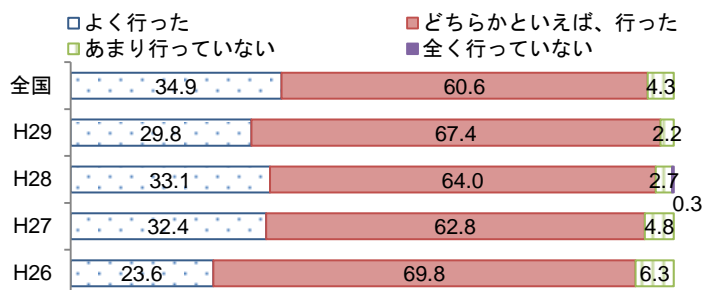
また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に「そう思う」と回答した児童の平均正答率が高い傾向にあります。

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問は、話し合う活動をとおして行うことが効果的です。発問内容とともに授業形態を工夫することが大切です。

【学校質問紙】(36) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

小学校

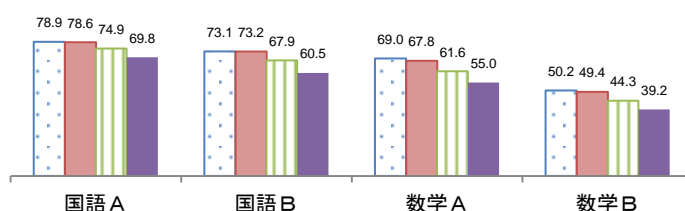
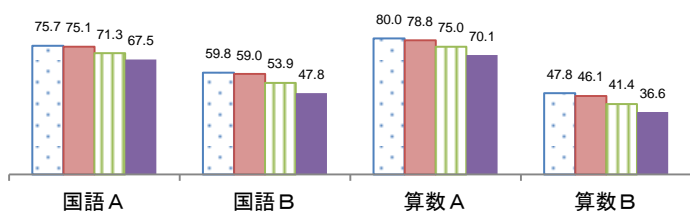
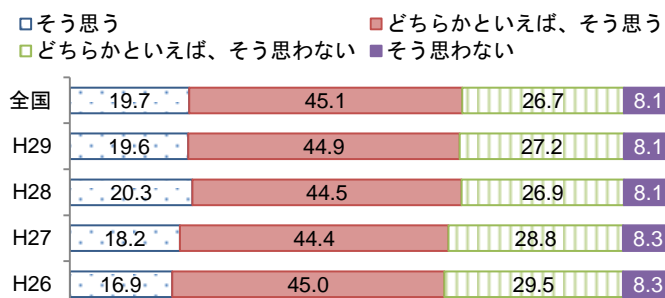
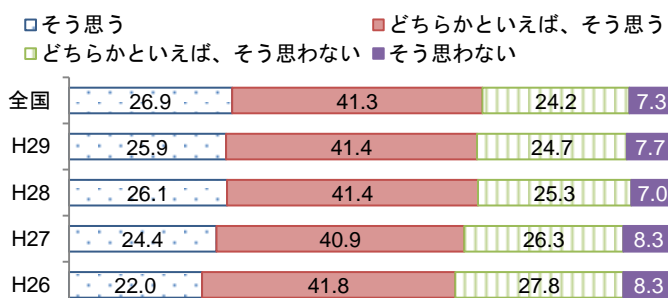
中学校



【児童生徒質問紙】(68・70) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

小学校

中学校



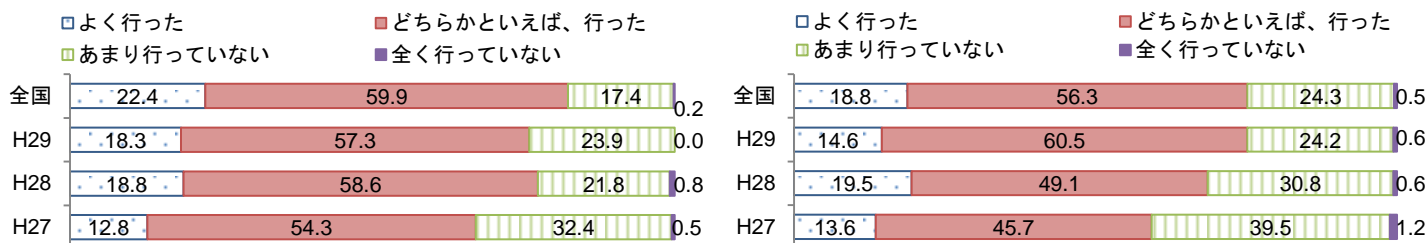
授業で学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動の取組に関する質問において、学校と児童生徒の回答状況を比較してみると、学校が「よく行った」と回答している割合を、児童生徒が「そう思う」と回答している割合が大きく上回っています。学校が「頻度」に着目して回答したのに対し、児童生徒は「学んだ充実感」に着目して回答したことが考えられます。活動を多く取り入れ学びの機会を増やすことも大切ですが、子どもたち自身が主体的・協働的に学んだと思えるような授業を展開していくことも大切です。

また、児童生徒質問紙の回答別に平均正答率を比較してみると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっており、関連が見られます。

【学校質問紙】(41) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

小学校

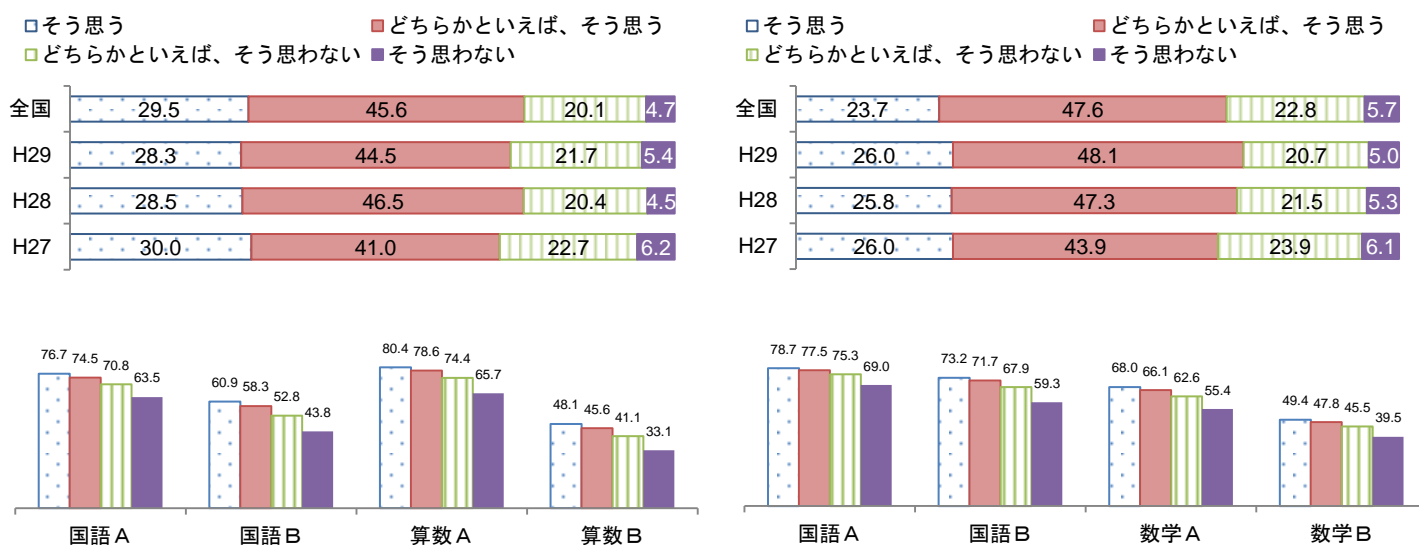
中学校



【児童生徒質問紙】(58・60) 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか

小学校

中学校



6

学校の組織的な取組に関する状況（目標の提示・振り返り活動）

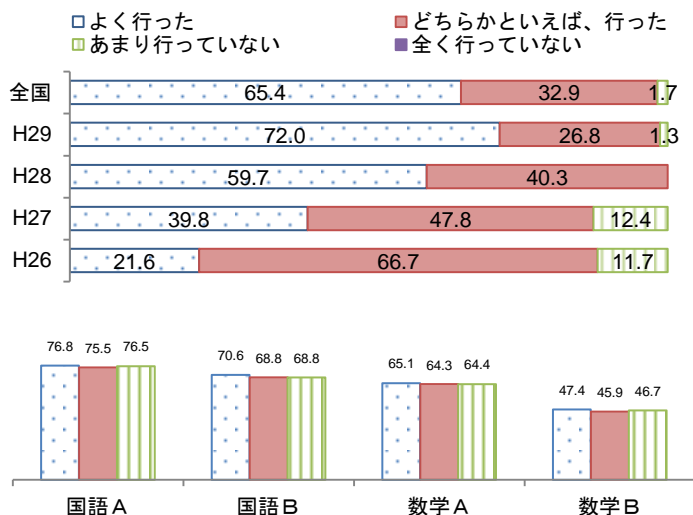
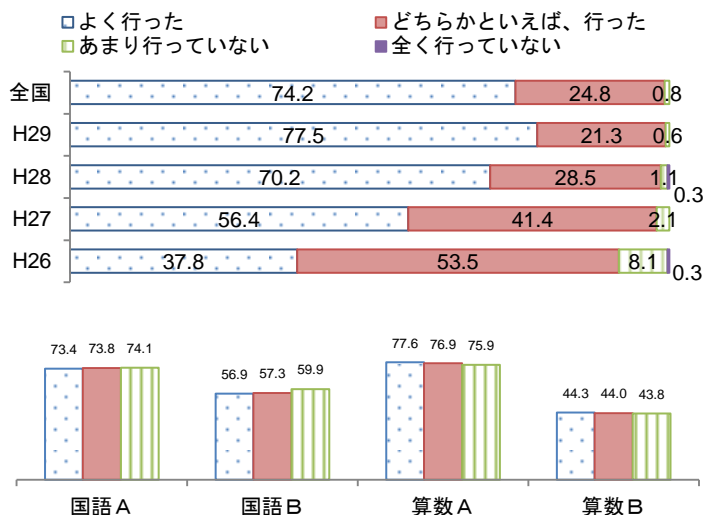
回答別に平均正答率を比較してみると、学校質問紙の回答と平均正答率には大きな関連が見られません。児童生徒質問紙では「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

目標（めあて・ねらい）の提示の取組は定着が図られてきていますが、単に単元名のみでの提示になっていたり、一方的な提示になっていたりする場合があります。目標（めあて・ねらい）の提示では、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや提示のタイミングを工夫することで、児童生徒に思考の見通しを持たせることが大切です。

【学校質問紙】(33) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

小学校

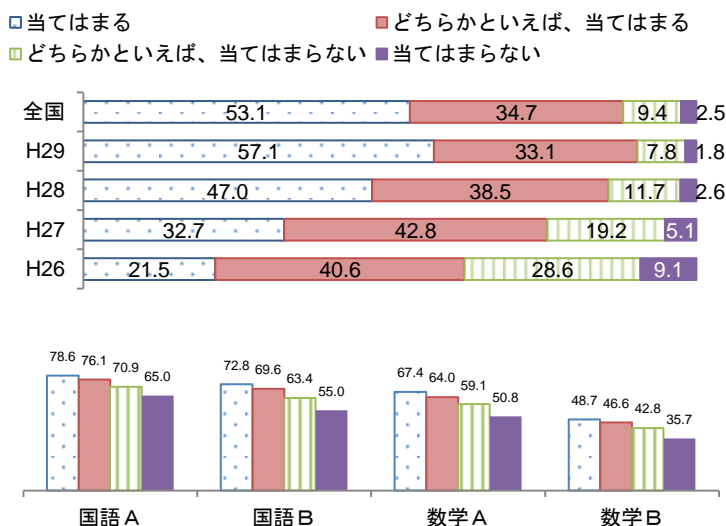
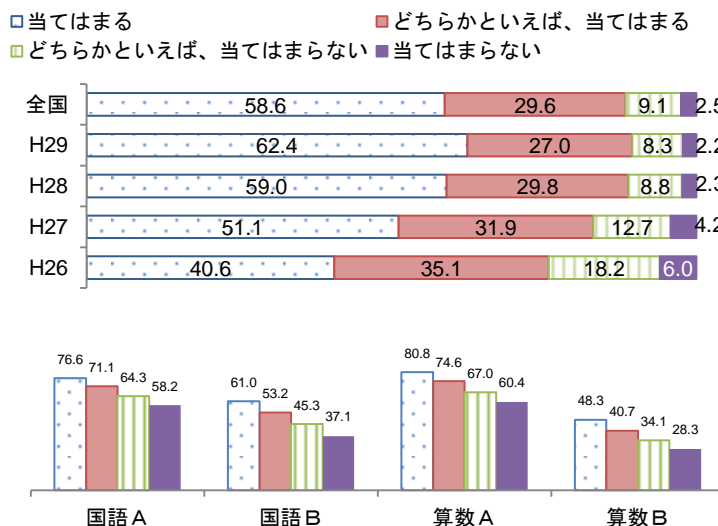
中学校



【児童生徒質問紙】(61・63) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

小学校

中学校



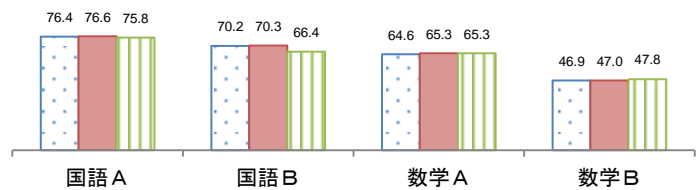
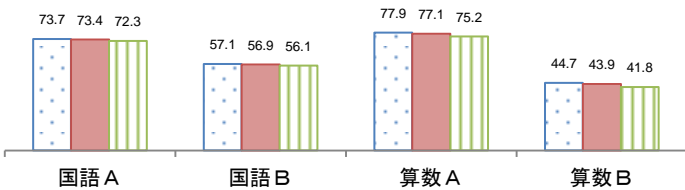
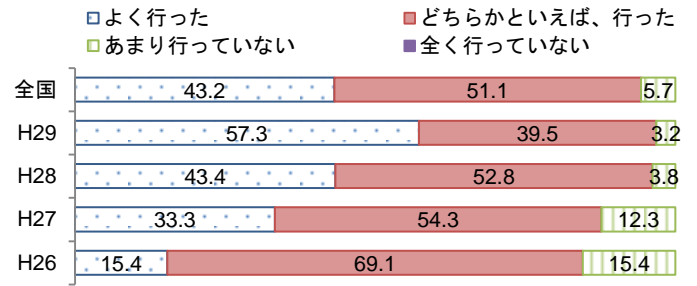
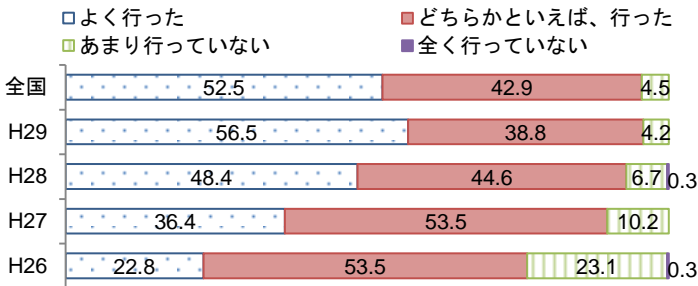
回答別に平均正答率を比較してみると、目標の提示に関する質問と同じ傾向が見られ、学校質問紙の回答と平均正答率には大きな関連が見られず、児童生徒質問紙では「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

振り返る活動の取組も定着が図られていますが、感想のみに終わっていたり、時間が十分確保されていなかったりということもあります。振り返る活動では、「何がわかったか」「何ができるようになったか」を児童生徒一人ひとりに記述させます。教科や単元に応じて、文章、図、計算など多様な方法があります。文章で記述する場合は、書き出しを与えてそのあとを書かせたり、キーワード（重要語句や公式、なかまの考え）を使って書かせたりするなどの工夫が考えられます。

【学校質問紙】(34) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

小学校

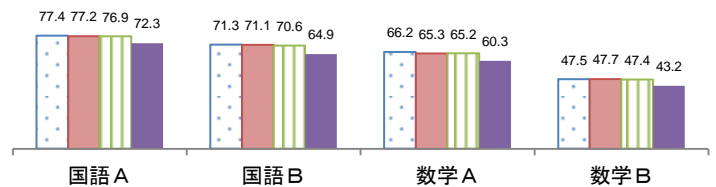
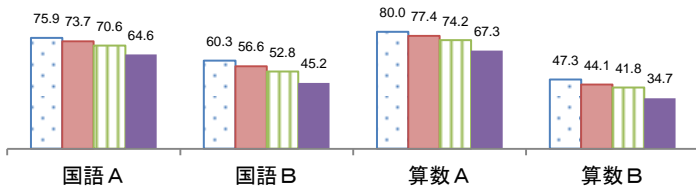
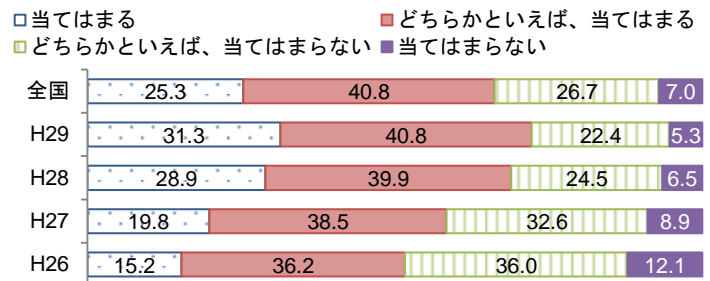
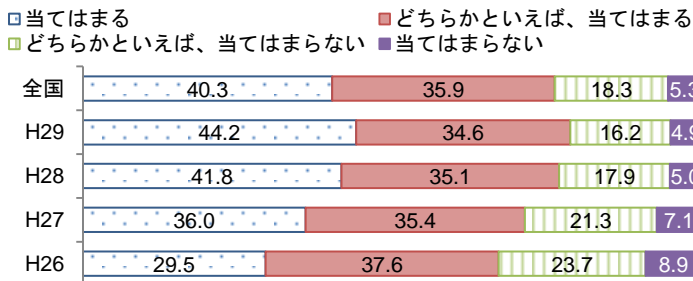
中学校



【児童生徒質問紙】(62・64) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

小学校

中学校



7

地域との関わりに関する状況

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒の割合は、昨年度に比べると低くなっていますが、平成26年度から見ると徐々に増えてきています。回答別に平均正答率を比較してみると、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

「調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した小中学校の割合は、増加傾向にあります。引き続き、子どもたちが地域や社会のことを考えられるような出来事や課題を提示していくことが大切です。

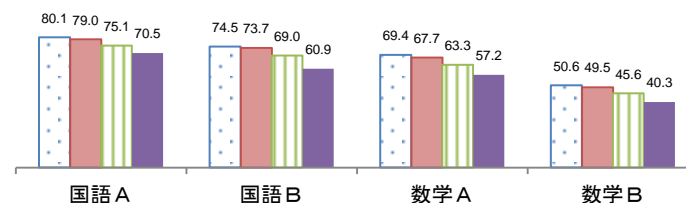
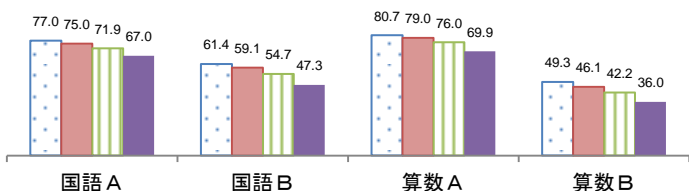
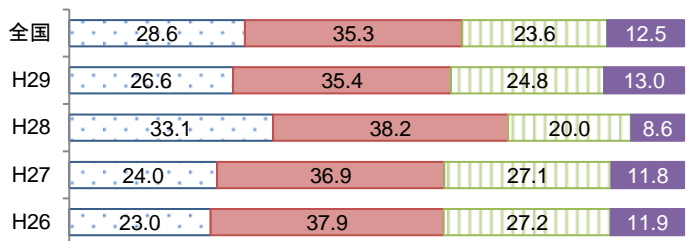
【児童生徒質問紙】(41・43) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

小学校

中学校

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
 □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
 □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



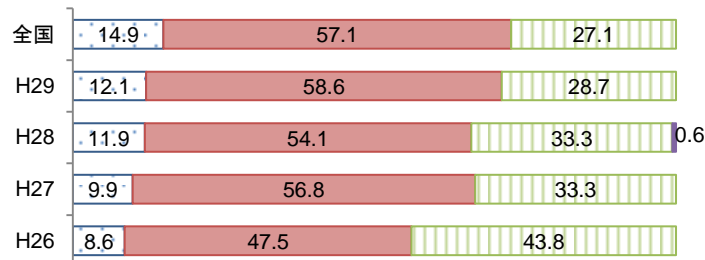
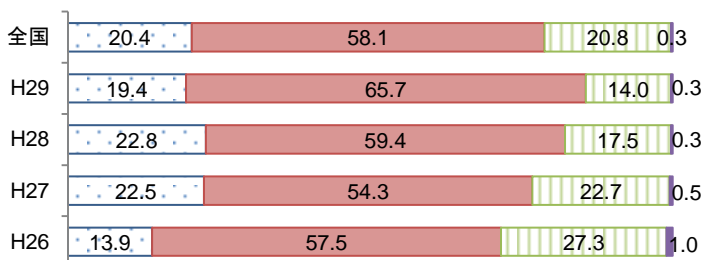
【学校質問紙】(50) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

小学校

中学校

□よく行った ■どちらかといえば、行った
 □あまり行っていない ■全く行っていない

□よく行った ■どちらかといえば、行った
 □あまり行っていない ■全く行っていない

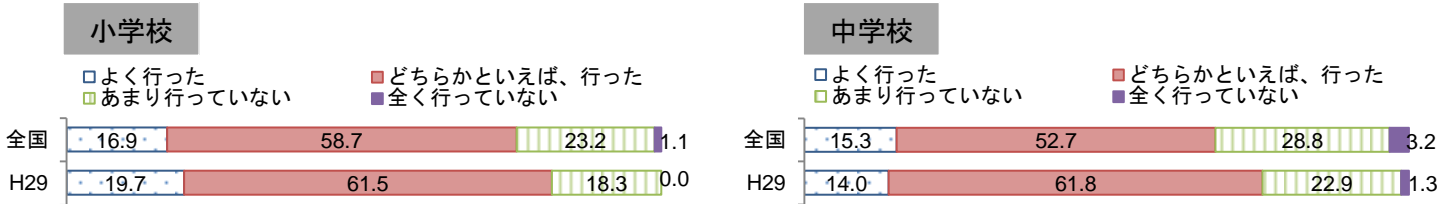


8 学校と児童生徒との意識の差の状況

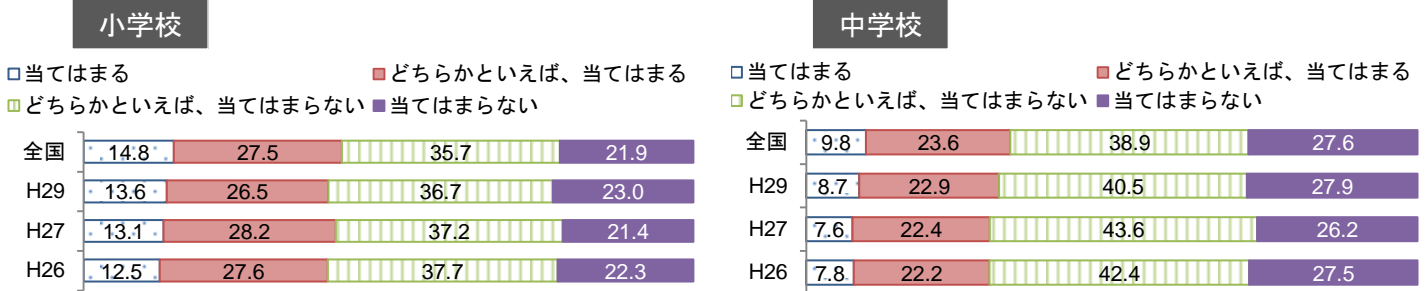
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか」との質問に肯定的に回答している小中学校の割合は、それぞれ80%、75%を超え、全国より5ポイント以上高い状況です。しかしながら、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、それぞれ40%、30%程度にとどまっています。行事での指導だけなど、日常的に指導が行われていないため「当てはまる」と答えにくい状況にあることが考えられます。

また、「前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」との質問に「よく行った」と回答した中学校は増加傾向にあります。今後も生徒の意識の変化につながるよう、学校の取組内容及び方法を見直し続けることが大切です。

【学校質問紙】(83・82) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか

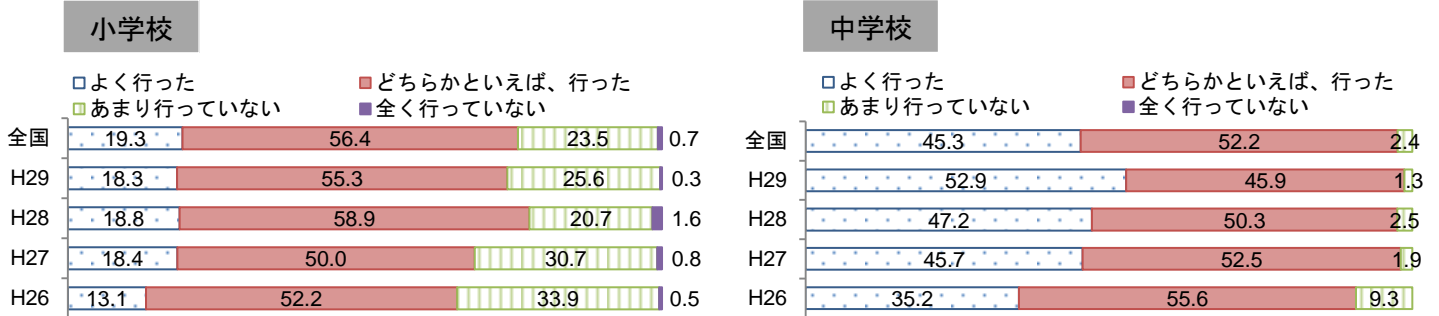


【児童生徒質問紙】(42・44) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



※平成28年度は質問項目にありません。

【学校質問紙】(45) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



【児童生徒質問紙】(10) 将来の夢や目標を持っていますか

